

道東のカラー一紙面倍增

道新釧路印刷

北海道新聞

発行所
北海道新聞社
釧路支社
郵便番号 085-8655
釧路市黒金町11丁目5-1
電話 0154(31)2703
©北海道新聞社 2007

速報

インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp
ご購入申し込みは
0120-464-104

最大16面 鳥取に最新鋭工場完成

隣の製紙工場と連携

道東へ美しい紙面を届ける印刷拠点として建設を進めていた北海道新聞社の新工場が完成し、二十三日、釧路市内で竣工式・輪転機始動式と落成披露パーティーが開かれました。パーティーには約四百人が出席したほか、工場が建つ鳥取地区に伝わる「きりん獅子舞」の格式高い舞が披露され、新工場誕生に花を添えました。新工場での印刷は道新釧路印刷(社長・伊庭野卓史北海道新聞社制作局長)に委託します。



会場を厳かな雰囲気包んだ「きりん獅子舞」

厳かに「きりん獅子舞」披露

新工場は、道新釧路支社(黒金町一)から西に約三き離れた日本製紙釧路工場に隣接する九千平方メートルの敷地に完成。大規模地震発生に備えて、新聞印刷工場として道内初となる免震構造を取り入れた一部鉄骨鉄筋コンクリート造三階建てで、延べ床面積は六千四百四十六平方メートル。住所は釧路市鳥取南三の八の二、電話は0154・55・1830です。

釧路市長ら招き竣工式

また、パーティーの冒頭に披露された「きりん獅子舞」は、鳥取地区を開拓した土族たちが戦前、故郷の鳥取県をしのんで鳥取神社に奉納したのが始まり。

菊池社長が始動ボタン



道新釧路印刷工場の竣工を祝ってテープにはさみを入れた。



製造工程見学コースを備えた道新釧路印刷工場

また、九月三日から工場の一般見学が可能で、印刷工場単独のコースのほか、日本製紙釧路工場の協力を得て、新聞紙の製造工程を合わせて見学できるコースも用意しています。

輪転機は両面カラー機二台を含む六台で、最大で毎時十五万部の印刷ができます。カラー面は最大十六分で、倍増します。さらに、省力化と紙面品質向上のため、CTPと呼ばれる、フィルムを使わない製版システムを道新グループで初めて採用しました。すでに、七月三十日から全面移行しています。

情報化社会牽引を



伊庭野卓史
釧路市長

道新釧路印刷工場が、このたび無事竣工の運びとなりましたことを心からお喜び申し上げます。

新工場は、釧路・根室圏をカバーする拠点として、新聞印刷工場では道内初となる免震構造を採用するなど、安全面にも十分に配慮した施設です。さらに新工場は、シンプルかつ機能的な最新鋭のものとして、その稼働が大いに期待されておりました。

意義深い資源再生



中山哲紙
日本製紙
釧路工場

新工場の竣工、まことにめでとございませう。道東地方全域を支える、より盤石な態勢が構築され、私どもも用紙の供給をはじめ果たすべき責任の重要性を再認識しております。

また、古紙を主原料とする新聞紙の製造から、新聞の印刷・発送までを見学可能なコースの設定は、新聞紙のリサイクルを通して資源の大切さを伝え得る大変意義深い事業であり、このことに参画する機会が得られ、光栄に存じます。

北海道新聞の今後ますますのご発展を祈念し、新工場竣工を心よりお祝い申し上げます。

制作工程 間近に「体験」

工場玄関に地元っ子の壁画



製造工程にはフィルムを使わない新製版システムが採用された



巻取り用紙はロボット式台車で運ばれる

道新釧路印刷工場は最新の輪転機を導入し、カラー紙面が従来より最大二倍に増えるほか、文字なども鮮明になり、読みやすい紙面になります。

三階の見学者専用フロアは稼働する輪転機が一望できるほか、新聞制作工程をゲームで体験できるコーナーや写真・パネルなどを用意し、新聞のできるまでを楽しく、分かりやすく伝え



手前が道新釧路印刷工場、日本製紙釧路工場が隣接している

製紙工場と新しい見学コース

工場一階玄関には、公募で選ばれた中居向(なかいむぎ)愛華さん(釧路町昆布森中一年)の図案を基につくられた大壁画「スカイハート」が掲げられています。二羽のタンチョウが羽でハートを形作っている図柄で、道大釧路校美術教育専攻三年生の四人が原画を制作、釧路管内の小学校十九校の児童がちぎり絵で完成させました。

愛称はしんくろ

工場の愛称は釧路町の会社経営者松並邦拓(くにひろ)さんの作品で、新聞や森林、新工場を意味する「しんくろ」が由来です。

多彩に工場記念行事

◆アルフォンス・ミュシャの憧れのパリと祖国モラヴィア。26日まで、道立釧路芸術館(市内幸町4の1)。ミュシャ財団の協力のもとチェコの二つの国立美術館のコレクションを中心に160点の代表的な作品を展示。一般900円、高校生300円、小、中学生400円。

◆画家岸田劉生の軌跡

9月9日まで(月曜休)、釧路市立美術館(市内幣舞町4の28)。笠間日動美術財団所蔵作品を中心にシリーズ麗子像をはじめ油彩、水彩画など約120作品を展示。一般900円、高校生300円、小、中学生200円。

◆ルネサンスくしろアートフェスティバル(北大通ANDON&フラッグギヤ

ラリー) 9月2日まで、釧路市北大通(JR釧路駅前一幣舞橋)。「私の釧路」をテーマに市民から公募した水彩画(200点)をオリジナルあんどんで額装し展示。同時に、市民が描き、街灯に取り付けられたカラフルなフラッグ(約200旗)で街を飾る。

◆釧路市こども遊学館「宇宙の日」ふれあいフェ

15日に親子見学会

スティバル協賛親子特別工場見学会 9月15日、道新釧路印刷(市内鳥取南3の8)。同フェスティバル協賛事業として実施。新聞印刷の見学やゲーム感覚で学ぶ新聞制作コーナーなど。3日まで事前応募必要。

◆森を知ろう、育てよう 9月23日、達古武オートキャンプ場とその周辺。釧路自然環境事務所の協力の送のみで9月20日必着。

息調査などを行う。事前公募。釧路湿原国立公園指定20周年記念事業兼湿原20歳まつり協賛事業。

◆2007釧路大漁どんぱく花火写真コンテスト 10月2日〜7日、釧路市生涯学習センター 市民自由広場(市内幣舞町4の28)。今年のどんぱく花火大会で撮影した花火の写真を公募し上位作を展示。応募は郵送のみで9月20日必着。

釧路新聞ルーツに

釧路支社は道東のセンター



見学コースは工場単独のほか、隣接する日本製紙釧路工場と連携し、回収した古紙を再生して巻き取り紙を造る様子も分かるユニークな一貫型コースの二つを用意し、皆さんのお越しをお待ちしています。

北海道新聞のルーツ紙のひとつが一九〇〇年十月に創刊した旧「釧路新聞」。詩人・石川啄木が筆をとっていたことで知られる。第二次世界大戦下の「一県一紙」政策により北海道新聞に統合され、赤レンガ造り二階建て社屋(当時・釧路市大町二)が支社となった。四八、四九年と増築を重ねたが手狭になり、五七年十一月、幣舞橋のたもとに建設した地下一階、地上四階の新社屋で印刷を開始。これを機に、それまで本社から送っていた帯広、十勝版は釧路支社印刷に切り替えられた。七〇年には輪転機増設で増築。その後、八〇年十月に黒金町の現在地に地下一階、地上五階の社屋を建設、八九年に増築した。

死者三十人を出した五二年三月の十勝沖地震では、活字ケースが倒壊。一時は新聞製作が不能に陥ったが、タプロイド判石版刷り号外を手回し機で発行した。

現在の組織は、総務、報道、販売、広告の四部と昨年十一月に設立した道新釧路印刷。報道部は釧路市、釧路町、白糠町、鶴居村を

管轄するほか道東のプロックセンター機能を備える。

地域に役立つ情報を

道新釧路印刷工場竣工にあたり、ごあいさつ申し上げます。

本日ここに念願の新工場が竣工いたしました。これもひとえに関係各社のご協力、ご努力の賜であります。誠にありがとうございます。フルカラーが可能になり、釧路地区の皆さまには以前よりカラフルな紙面をお届けできるようになります。

地域の皆さまに役立ついろいろな情報をこれからもどんどん発信してまいりますので、今後ともご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。

社会面もカラー化

新工場は最大40坪16方面カラーの新聞を印刷することが出来ます。今までカラー印刷できなかった社会面、夕刊二面の芸能面をカラーで紹介できます。特に朝刊のスポーツ面は、ダイナミックな写真を迫力あるカラー紙面でお届けできると思います。

工場には見学コーナーを設けました。新聞が印刷されるのを間近に見ることが出来ます。日本製紙さんと協力して、古紙のリサイクルを通じて環境・森林の大切さを学ぶコースにもなっています。工場を訪れて道新をより身近に感じてほしいと思います。



清 本 印刷長 坂 道新 釧路 工場



昭 祥 社長 松 岡 道新 釧路 支社